



## つながる・ささえる・つくりだす 在宅現場の地域包括ケア

秋山正子＝著

本体2000円＋税  
医学書院 ☎03-3817-5657

2008年、第9回国際がん看護セミナーでのこと。スコットランドのエジンバラにある「マギーズキャンサーケアリングセンター」の紹介を受け、熱心に質問をする秋山正子さんの姿を今でもはっきり覚えています。マギーズの活動こそご自身が求めている形であると語り、運営方法やフアンドはどうしているのか、この日本でもできないだろうかと尋ねていました。

それから2年後、「暮らしの保健室」の開設に始まり、2016年10月「マギーズ東京」オープンまでの夢を形にする秋山さんの実践力を、私は1人の訪問看護師として身近に感じながらも仰ぎ見

てきました。この本では、その実践力の成果を「つながる・ささえる・つくりだす」というキーワードでまとめ、「地域包括ケア」を形づくる方法が描かれています。

### 秋山さんの実践が勇気をくれた

訪問看護認定看護師教育課程に通っていたころ、私は、「在宅看取り率・訪問看護利用率ワースト1位」だった地元・佐賀県の人たちにも在宅ケアの魅力を知ってほしい、在宅看取りが市民権を得られるようにしたいと願っていました。そんなとき実習先の白十字訪問看護ステーションで秋山さんに出会い、純粹な感性を軸に、人と人がつながることをなんとストリートにサポートできる人なのだろうと思いました。

この幸運な出会いと、間近に見た秋山さんの実践は、私に1つの勇気をくれました。それは「人は最後まで自分らしく生きることができると。その手助けをするために在宅ケアがある」という信念となり、「看護の言語化というけれど、どう表現し、伝えればいいのか」と模索していた私の支えになってくれました。さらに実習を終えて佐賀県に戻り、訪問看護師として日常業務をこなしながら、

看護小規模多機能型居宅介護「ケアステーション野の花」を立ち上げるときのヒントと原動力にもなり、地域の人のニーズに応えられる看護の力を発揮するモチベーションや、看護実践のベースになったと言つても過言ではありません。やがて在宅ケアに協力的な医師との連携が始まり、時を同じくして地域の多職種連携ネットワークをつくり出すきっかけをもらい、いまでは市民公開講座を定期的に開催できるまでになりました。

### 地域に根差した言葉で語る 「地域包括ケア」

この本では、「地域包括ケア」というんだかよくわからない言葉の意味するところが、秋山さんご自身の地域に根差した活動を通して、手に取るように伝わってきます。どの事例でもとてもあたたかで丁寧な関わりがなされ、人と人がつながって紡ぎ出される持続可能な支援とその結果が、とてもやさしく、身近に感じられる文章で綴られています。

この本を読めば、私たちが地域に根差した活動続けることこそが、地域包括ケアになるのだとわかります。皆さんもかつての私と同じように、勇気をもらうことができるはずです。